

令和 7 年 9 月 2 日（火）

災 害 対 策 室

第 3 回 「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 策定検討委員会

1 開会

2 議題

- (1) 「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 素案について
- (2) 「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 の作業進捗状況及び今後のスケジュールについて

3 閉会

第 3 回「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 策定検討委員会会議録（要約）

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	1 開会 ただいまより第 3 回「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 策定検討委員会を開会いたします。 本日は「板橋区スポーツ推進ビジョン 2 0 3 5」 の素案について協議いただく予定ですが、お配りしている資料は今後区議会に付議していく資料でもあるため、取り扱いにご留意いただきますようお願いいたします。 それでは、会議に入ります。初めに本委員会委員長であります東洋大学齊藤教授に開会のご挨拶をいただきます。
齊藤委員長	本日はお集まりいただき、ありがとうございます。それにしても近頃は暑い です。先日、ゴルフのトーナメントを観戦しましたが、やはりスポーツは「見る」 のも含め、よいものだと感じます。 本日は素案が資料として出ており、次回は 12 月開催で間が空きます。本日の意見が素案に反映されて原案になるかと思うので、数多くご意見頂ければ と思います。

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	ありがとうございます。それでは、委員の皆様におかれましては、それぞれの自由なご意見をぜひいただきたいと思います。これからの議事運営は齊藤委員長をお願いします。
	2 議題 (1) 「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」素案について
齊藤委員長	議題(1)について、ご説明をお願いします。
スポーツ振興課長 ジャパン総研	素案を用いて説明をおこなった。
齊藤委員長	ありがとうございます。全体の説明をしていただきました。ご意見をいただくのは、主に24ページ以降についてかと思います。何か質問はございますか。 まず私から発言しますと、第4章の主な取組の中には担当課らしいものが示されていますが、ほとんどが行政の担当課のようです。推進ビジョン自体は区が推進するのか、関係団体も含めてオール板橋で推進するのか。后者であれば、関係するウォーキング団体などが出てもよいかと思いますが、どうでしょうか。
スポーツ振興課長	オール板橋と考えてはいるが、既存の取組や資源の紹介をする書きぶりなので、どうしても行政に寄っている状況です。様々な団体とどんな取組ができるのか、検討したいと思います。また、素案の一番最後の第5章の部分で、関係する団体などと連携する旨は書いており、こちらの記述を膨らませられればと思います。
齊藤委員長	加えて、行政内部についても、スポーツ振興課はメインなので多く出てきていますが、その他の教育分野、保健福祉分野などのスポーツに関わる取組に関してヒアリングをかけて盛り込んでいく予定はあるのでしょうか。
スポーツ振興課長	この素案の作成に至るまでにヒアリングは既に行っており、何をチョイスするかの問題かと思いますので、改めて検討します。
齊藤委員長	前座ということで私から発言しました。他にはあるでしょうか。
森委員	素案の10ページにはかわまちづくりの記載があります。ニュースポーツやユニバーサルスポーツの枠組みになるのかと思いますが、我々よりも下の世

発言者	発言内容
	代は、少し軽く運動したいとか、世の中的にいいことをしたいというニーズがあり、河川敷という資源がある中で、クリーン活動、ゴミ拾いをしながらウォーキングしようといった取り組みも可能性があるのではないかと思います。クリーン活動についての記載があってもよいと思います。
スポーツ振興課長	プロスポーツとの連携でいうと、ベレーザなどが地域の清掃活動を実際に行っており、連携等できるか考えたいと思います。
森委員	その方がPRの面でもよいし、区民としても愛着がわくイベントになるかと思います。社会貢献活動のような記載があってもよいと思います。
齊藤委員長	類似の取組は色々な団体で事例があります。オリジナリティが問題になるかと思うので、記載の際は確認をお願いします。他はいかがでしょうか。
河島委員	今の話だと、国交省主体の荒川クリーンエイドという活動があるので、その辺りを拾えるとよいと思います。
齊藤委員長	北区は桜ウォークのイベントで参加者にごみ袋を渡してゴミを拾っています。他にはあるでしょうか。
井上委員	スポーツの普及には、「モノ」の前に「コト」、つまりソフト面、場づくりがなければいけません。計画としては立派なことがこれまでも示されていますが、最終的に結局どこが何を担うのか、また全体像や優先順位が明確でないと、成功しません。スポーツが持つ経済効果やSDGsの観点での効果など、様々な考え方が出てきている中で、どの部分に注目することが区民の便益につながるのかを考える必要があります。総花的なことはわかりましたが、ブランド推進のためにどのようなことを行っていくのか、またスポーツのどのカテゴリーならそれができるのか考えて、しっかり集積していかないとはいけません。もう少し絞り込まれるようお願いしたいです。また、これだけのことをやるには、役所だけでは100%できません。スポーツコミッションのような組織を、これは行政が主になる必要があるので立ち上げて、そこで区のスポーツの推進のあり方を議論していく必要があります。話が取り散らかりましたが、ウォーキングはいつでもどこでもやれるものです。色々な団体とアライアンスを組んでいくなど、意見を交わしていければよいと思います。
齊藤委員長	いつも貴重な意見をありがとうございます。区の中でもスポーツの施策の位置づけがあると思いますが、その辺りはどうでしょうか。

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	答えになるかわかりませんが、様々な取組が散りばめられているだけの面もある一方、今回のビジョンでは基本理念を設けて基本目標を4つ掲げました。2035年にはどうなっているのが望ましいかが書けているとよいのではないかと、という意見は庁内でもありました。その辺りが見える形にはしていきたいと思います。また、第5章は現在、内容が全て見える形ではありませんが、ご意見のあった点も検討していきたいと思います。
齊藤委員長	基本目標4つを並べていますが、その並べ方の順も含め、スポーツに関するプライオリティを決めるときは、首長の考え方も大きい要素です。それも踏まえて順番づけも考えられるだろうし、また、スポーツ庁の長官の交代を踏まえても、パラスポーツはより前に出てくるかもしれません。
スポーツ振興課長	わかりました。
齊藤委員長	他にはあるでしょうか。1人1回は発言してほしいと思っています。健康推進課の取組として出してほしいものなどはあるでしょうか。
太田委員	2030年に向けた健康分野のプランを現在当課でも策定中です。ウォーキングについては、こちらでも力を入れていきたい点です。スポーツフィールドマップについて、みどりと公園課、スポーツ振興課と連携して作っていきたいとおもいます。また、いた Pay 健幸ポイントの取組として、歩数に応じてポイントを獲得できるインセンティブ付与の取組をしています。現在37,000人の登録があり、今後増やしていきたいと、組織横断的に進めたいと考えています。
齊藤委員長	インセンティブが皆さん好きですからね。SNSなどとできれば絡めて進めてほしいと思います。シティプロモーションの観点からはどうでしょうか。
山川委員	素案の42ページに書いてもらった点で、区内企業との連携等について、この1項目だけではありますが、スポーツ振興の土台になる大きな1項目だと思っています。先日も東洋大学に訪問して産業関係や大学との連携の話をさせてもらいましたが、日々企業を訪問して顔の見える関係づくりにまずは取り組んでいこうと考えています。対面での会話ならではの感覚や熱の伝わり方が関係づくりには大事かと思っています。関係性を多く色々とつくっている中で、こことこことを結び付ければよさそう、という場面が出てくることもあります。地道な取組も重要だと認識して進めている所です。この1項目は注力している所なので、スポーツ推進の関係でも取り組みたいと思います。また、オール板橋というご意見もありましたが、誰がどのような取組を担うか、

発言者	発言内容
齊藤委員長	どのような団体等がどんな役割で関わっているのか、第5章以降になるのかかもしれないが、示せてもよいのかかもしれないと思いました。 計画策定後に取組を進めるときにどう関わるか、ということが書かれているとよいと思います。
スポーツ振興課長	おっしゃる通りだと思うので、どのような書き方ができるか検討したいと思います。
阿部委員	前回も似た話をしたかもしれませんが、ブランドという視点だと、いかに他と差別化できるかという話になります。第4章の説明がありましたが、どうしても総花的になるのは性質的に仕方ないですが、どこに強みがあるのかという点について、色々な人の意見を聞きながら、この中にあるかどうかはわかりません、磨いていく作業ができてよいかもしれません。 また、第2章で現状と課題として、情報発信に関する課題が多く挙がっているように思われました。積極的に発信していくといった記述は各取組の中に散見されますが、表記としてはあいまいで、あまり強くありません。これまでも決してやっていない訳ではない中で、けれども届けたい人に届いていないという状態かと思うので、テクノロジーの活用の仕方なども掘り下げて書けるよといかと思います。ポイントとしては、26 ページにあるプロスポーツチームやスポーツ大使等との連携がカギになるかと思います。爆発力のある発信は、そうした取組でないと難しいと思います。具体的な方策を、ビジョン上に書き込むかは別にして、検討が必要です。 また、32 ページのユニバーサルスポーツについて、第2章では、特別支援学校と他校の交流ができるとよいと思うが、特別支援学校に対する見方が偏っていたり、先方のニーズと合わなかったりする、といった指摘が掲載されていました。学校教育との接点がこのページの一番下に入ってはいますが、学校とスポーツ団体との間に教育委員会が入ることであまりよく可能性もあるので、検討してもらえればよいと思います。
齊藤委員長	今のご意見について、事務局の方ではどうでしょうか。
スポーツ振興課長	PR の工夫でいえば、イベント実施の際にアンケートを行い、どこで知ったかを聞いています。SNS の発信も重視していますが、知ったきっかけとして一番多いのはやはり紙媒体です。PR の工夫はしていかなければいけませんが、アンケート結果にもヒントは隠されているかと感じています。また、特別支援学校との連携という点では、32 ページのユニバーサルスポーツ体験会について、今度初めて志村学園と連携してオープニングイベントでダンス

発言者	発言内容
齊藤委員長	パフォーマンスをしていただきます。一気に何でもとはいかないですが、できることを少しずつ広げていきたいと思います。 情報発信について、今は過渡期で、紙媒体が好調という状況ではありつつ、スマートフォン等に代わってきています。マップの提案もあったので、作るのであれば、ホームページにスポーツ施設のマップがあり、クリックすると施設の概要がわかり、貸し出しの表も見られる、といったものだ、若い人たちはすぐに行くと思います。そこまでできるかどうか。また、ブランディングの話では、今回のビジョンで気になるのは、2020 のレガシーについて書かれていない点です。板橋はあまりレガシーにつながるものがなかったのかもしれませんが、大事にした方がよいかと思います。オリンピック・パラリンピアン等も大事にしながら、板橋のブランドとしていくことは必要かと思うので、文言として残すとよいかと思います。 教育関係の視点ではどうでしょうか。
久保田委員	11 ページに部活動改革ということで載せてもらい、ありがとうございます。ここに記載がある通り、地域移行実施計画 2025 を昨年策定し、ビジョン自体は 2030 年までありますが、早速次の実施計画 2028 の策定に入っています。今年度から野球クラブを創設しましたが、2 種目はどうするのかという問い合わせが様々な方から出ます。当然考えていますが、非常に難しく、毎年 1 種目ずつやっていきたいとは思っているものの、直営で取り組んでいる野球クラブの困難さを鑑みると、難しい状況です。今後は種目が増えるにしたがってスポーツ振興課とのつながりも深くなってくるかと思います。部活というと、忘れがちな点ですが、地域に展開していく中で「楽しむ」という視点も大きいものです。自分が学生のかぎりのときは殴られたり物が飛んでくるということもありましたが、今は指導員の言動もフォーカスされ、保護者も以前とは違う意識を持っています。部活といえども教育の在り方を反映しています。願わくは、小学校・中学校で身につけたものを大人まで持ち続けてスポーツを楽しんでほしいと思います。
齊藤委員長	部活の地域移行は本当に大変です。北区は東洋大と連携して、大学の教職員を活用し、講習会を受けなければ指導できないという仕組みを展開しました。何かあればお声がけいただきたいと思います。 障がい福祉の観点ではいかがでしょうか。
佐久本委員	ユニバーサルスポーツということで取り上げてもらっており、嬉しく思います。ユニバーサルスポーツというのは、言うのは簡単だが実際の普及は大変難しいと感じています。32 ページで、触れる機会の充実とありますが、触

発言者	発言内容
齊藤委員長	れる機会にとどまるという懸念があります。最終的な目的としては「一緒にできる」「つながれる機会となる」ことかと思いますが、区の障がい者スポーツ大会も、現在は重度の方の機会のみとなりつつあり、健常者はそのサポートと分かれています。なかなか「一緒に楽しむ」ということは難しい状況です。その実現に至るのはいつのことだろうと思いますが、第1歩として取り上げてもらえたことは嬉しく思います。 また、「環境の整備」も、言うは易しいが難しいことです。知的障害のある方のプール教室を開催していますが、介助の点で、親についてきてもらったり指導者についてもらったりする必要があり、続けていこうとなると難しく、手伝える人員も限られているため、応募があっても断らざるを得ない面があります。人材育成も必要だと実感しています。障がい者スポーツ大会も体育館での実施を検討しましたが、トイレの確保を考えると、区内体育館は、障がい者が多く集まるようなイベントは現状では難しかった所です。少しずつ整えていって、できることからやっていくことが大切かと思います。 ハードルは確かに高い状況です。ただ、パラ水泳連盟と東洋大学は包括協定を結んでおり、例えばパラスイマーが幼稚園児と一緒に体験会を行う、一緒に食事する等の取組をやっていて、園児ははじめ大変驚きますが、段々慣れてきます。このことが、障害者に対するゆくゆくの慣れにつながるのかと思います。 地域振興の観点ではどうでしょうか。
折原委員	町会や自治会への支援を現在は担っており、各地域ではまちの運動会やスポーツの大会等が行われています。ビジョンを見ていると、スポーツの価値が大きく変わってきている中で、今回のビジョンの中でもスポーツの定義としてウォーキングや公園といった点を入れており、それによって健康寿命の延伸にもつながるかと思います。各取組が表の中に色々と落とし込まれていますが、色々とよいものを定めて取り組んでも、それを周知して届けていくことが必要だと思います。 また、具体的な点で、28・29 ページの中に「ライフステージに応じたスポーツの推進」という見出しがありますが、全ての幅広いライフステージの取組を一挙にPR できる所かと思います。よく見ると、子どもの部分と高齢の方に偏っている印象があります。働き盛りの年代に対する働きかけ等を載せ、全世代にスポーツの重要性を訴えられると、タイトルの言いたいことが伝わると思いました。
齊藤委員長	ただ今のご意見に対し、事務局から何かありますか。

発言者	発言内容
スポーツ振興課長	働き盛り年代に訴えかけることについては記載がないので、検討したいと思い正字。
齊藤委員長	前回発言のあった関係で、素案にスポーツフェスティバルの記載がありましたが、このページの記載をみてどうでしょうか。
安田委員	今は少子高齢化の時代ですが、我々の団体も同様で、人材の確保は各競技団体で難しくなっています。第4章の中に、ジュニア世代に対する既存事業がほとんどないと感じました。子どもから高齢者までという位置づけの中で、これからの板橋区のスポーツを担っていく子どもたちへのアプローチがもう少し付け加えられればよいと思います。スポーツフェスティバルもそれが狙いです。働き盛りの、お子さんをお持ちの方が、子どもを連れてフェスティバルに来る、というのが一番多い参加者層です。
齊藤委員長	子ども世代のスポーツということでのご意見ですが、事務局から何かあるでしょうか。
スポーツ振興課長	今取り組んでいる範囲で記載していますが、新たにキャッチできるものは落とし込みたいと思います。また、アンケートを見ると、スポーツフェスティバルを知らないという割合が8割を超えており、ここも対応していきたいと思います。
齊藤委員長	また、こどものスポーツとなると、今はスポーツ庁においてもマルチスポーツということがキーワードになっており、本ビジョンにも盛り込む必要があるかと思います。
井上委員	色々なスポーツを体験してマッチングを行い、やはりこのスポーツがよい、というスポーツを子どもが見つけられるよう取り組みを行っている会社があります。ジュニア世代に対して何ができるか。今は、若い選手も国際経験があつて、視座が高いです。私も力を貸せということであれば、様々な知り合いもいるので、できることはやります。私の開催している教室でも地域連携を行っており、福島県の子どもと交流したりしています。 また、埼玉県のある町では「日本一歩きたくなるまち」ということを打ち出したりしていますが、板橋区でもパンチのある打ち出し方が必要かと思います。例えば健康ポイントの取組でも、企業に協力してもらうことをお声がけするなどもできます。コアを作って、それに向けて協力していければと思います。

発言者	発言内容
齊藤委員長	今の話につながりますが、ビジョンの中にないキーワードが実はいくつかあり、先ほどのマルチスポーツもそうですが、こどもたちの「遊び」という観点では、レクリエーションという言葉もそうです。また、植村財団があるのに野外活動という言葉がどこにもありません。レガシーという視点でも、検討してはどうでしょう。
スポーツ振興課長	入れ方は考えさせていただきます。
齊藤委員長	全体的な視点で、他に何かあるでしょうか。
河島委員	今さらですが、スポーツの中にウォーキングや日常的な要素も含めている中で、もう一つ、自転車という要素もあります。日常的な移動の中でスポーツの範疇に入ってくる大きな要素かと思いますが、この素案の中に一つも出てきていません。公園の中にシェアサイクルの設置はかなりされています。板橋区は交通網としても東武東上線と都営三田線がありますが、その南北を結ぶのはバスになってしまうという面もあるので、自転車は移動の有効な手段であり、体を動かすことが自然にできます。また、板橋公園はリニューアルを進めていますが、板橋交通公園とも呼ばれており、自転車を練習できる所があって、リニューアル後も残す予定です。また、園内全体を回れる走行路もつくります。定義の中に自転車と入れられるならそれもよいですが、25ページにあるスポーツフィールドマップの中に、シェアサイクルの場所、これは民間によるものなので入れられるかという問題はありますが、また自転車道を入れるなど、自転車の活用を気軽に行えるような取組を施策の中にポイントで入れられるとよいかと思いました。
齊藤委員長	前回もそうでしたが、我々が気づかない点のご指摘をいただきました。サイクルスポーツというもので、日常的な使用も含めていけると区の特徴になるかと思います。
河島委員	荒川の河川敷も走れますが、荒川をずっと進んでいくと東京湾の方にも埼玉の方にもつながります。
齊藤委員長	入れていく可能性はあるでしょうか。
スポーツ振興課長	あると思います。ウォーキングマップとしてしまうと、3kmや5kmのコースになるとと思いますが、自転車を入れるとそれが広がり、よいかと思います。

発言者	発言内容
齊藤委員長	最後に、全体をまとめて、いかがでしょうか。
平岩委員	いつもこのビジョンについてはスポーツ振興課と話をするのですが、外部の方の意見を聞くと、なるほどと思うものがいくつも出て、どれも大切だなと思いました。これを見たとき、内部の委員はあまり違和感を抱かず、外部の方はあまり区の特徴が書き示されていないと思うでしょうが、行政がつくるものは、例えば私は個人的にはフェンシングを押し出したいですが、ここに書けば「どうしてフェンシングなのか」という話になってしまいます。今回、一点取りまとめてウォーキングということを打ち出せたのは、最初に委員長からあった通り首長の意見です。レガシーについても意見がありましたが、レスリングなど具体的な種目に特化できるので、これはよいかと思いました。次回の原案の中ではその辺りも入れられるとよいかと思います。勉強になりました。ありがとうございます。
節田委員	今のお話はまさにそのとおりで、こうした会議には慣れていませんが、出版社に40年いたので、この企画書ではNGです。もう少し細かい話も決めていくのだと思いますが、もう少し具体性があるとよいかと思い、先日は話題提供としてフットパスの話をしました。ウォーキングを入れてもらえたのはよいと思っており、日常的にできる、定着できるものになるとよいと思います。そのときに、板橋区にどのようなフィールドがあるのか明確になるとよいかと思います。また、そこに対して、先程レガシーという話もありましたが、例えば直己トレイルなど、ニックネームをつけるとよいかと思います。継続してできるようなものに落とし込んでいくことが重要かと考えます。一般的なスポーツは専門外ですが、板橋区らしいものを出してほしいと考えており、総花的だと難しいのではないのでしょうか。
齊藤委員長	様々な意見を頂きました。まとめは難しいと思いますが、よろしく願いしたいと思います。それでは、次の議題に移ります。 (2)「板橋区スポーツ推進ビジョン2035」の作業進捗状況及び今後のスケジュールについて
齊藤委員長	議題(2)についてご説明をお願いします。
スポーツ振興課長	説明をおこなった。
齊藤委員長	ありがとうございました。何か質問はございますか。

発言者	発言内容
齊藤委員長 事務局	-質問・意見等なし- 全体を通して何かありますか。 井上委員からの配付資料があるのでご覧いただければと思います。
齊藤委員長	3 閉会 次回は 12/18（木）18 時より開催とのことです。よろしくお願いいたします。これにて第3回策定検討委員会を終了します。ご協力ありがとうございました。